

2020年7・8月 No.356

ニュースレター

Kick-off Meeting号

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言や東京都の自粛要請の解除を受け、MISHOP も活動再開に向けた検討や各会員グループとの協議を行っていますが、いっこうに収まらない感染拡大の影響で、上半期の主催事業は全て中止、再開した会員グループも二つにとどまっています。

今号は Kick-Off Meeting 号と題し、中止になった同 Meeting の報告に代えて、事前にお伺いした各部長 (MISHOP 理事) のアンケート結果を報告します。コロナ禍による閉塞感を払拭したい。そしてウイズコロナの時代の新たな MISHOP 活動のヒントを探りたい。そんな二つの思いから、広報部会の皆さんと企画を練り、取材をしました。

また、6月3日付けで MISHOP の理事長に就任した松田剛明(たけあき)さんと前理事長で三鷹市長の河村孝さんからごあいさつをいただきましたので、ご紹介いたします。

ごあいさつ

MISHOP 新理事長 松田 剛明

三鷹市長 河村 孝



〔松田剛明 profile〕
学生時代のアメリカ留学を経て、
現在、学校法人杏林学園副理事長、
杏林大学医学部救急医学教室教授ほか

この度 MISHOP の理事長に就任しました杏林学園の松田剛明(マツダ タケアキ)と申します。

これまで、杏林学園として MISHOP の設立準備段階から 30 年以上にわたり、大学の職員や教員を MISHOP の役員、評議員として派遣するとともに、学生にとりましては、ボランティアとして貴重な体験をさせていただくなど、共に地域の国際化に深く関わりをもってまいりました。

今世界では、人々の願いとは裏腹に紛争やテロが後を絶たず、地球規模の環境悪化が日々叫ばれ、加えて昨今の新型コロナウイルスの感染拡大等々、世界はかつてない試練に晒されています。一方で、グローバルな協力や連携がなかなか難しい現在の世界情勢も、問題の解決を一層困難にしています。

こうした状況の中、MISHOP が 30 年間培ってきた“草の根の国際交流”は地道ではあるけれども、今とても重要であると考えます。

今後、微力ではありますが、MISHOP の発展と地域の国際化に尽力してまいりますので、皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

会員の皆さん、お久しぶりです。三鷹市長(前 MISHOP 理事長)の河村孝です。

新型コロナウイルス感染症の収束の見込みが立たない中、外国籍市民と交流し、理解しあい、支援するという MISHOP の活動は、大きな制約を受けざるを得ません。人と人の繋がりを大切に、ホスピタリティの気持ちで活動してくださっている皆さんは、歯痒さを感じておられることでしょう。皆さんの熱心な取り組みを身近で見させていただいた私としては、こんなことで MISHOP の活動の灯を消してはならないと強く感じています。これからの新しい生活様式の中で、今まで以上に MISHOP の活動が輝きを増していくよう期待しています。

さて、この度、MISHOP の新理事長を、学校法人杏林学園の松田剛明副理事長にお引き受けいただくこととなりました。ご存じのとおり、杏林大学病院は多摩地域の中核病院であり、新型コロナウイルス感染症に対しては、早期から発熱外来を設置するとともに救急医療機関としての役割を果たしてくださっています。また、平成 28 年 4 月には、市内に井の頭キャンパスが開設され、大学の有する人的・知的資源を地域社会への貢献につなげるため、地域交流室が窓口となって三鷹市との積極的な連携を図ってくださっています。

こうした多彩な取り組みを統括する立場を担っておられる松田先生を MISHOP の理事長にお迎えすることは、これからの MISHOP の活動に大きく寄与するものであると確信しています。

どうか皆さん、MISHOP のさらなる発展、そして魅力のある三鷹のまちづくりに向けて、新理事長のもと、これからもご協力をよろしくお願いいたします。

部会長アンケート

毎年6月に開くKick-Off Meetingでは、5人の部会長(MISHOP 理事)がその年の活動計画を発表してきました。しかし今年は新型コロナウイルスの影響で、ウォークラリーやフェスティバルなど上半期のイベントがすべて中止となり、下半期も目途が立たず、活動計画を発表することができません。

そこで5人の部会長に下記のアンケートを取らせていただきました。

先行き不透明な中での質問で、答えにくい質問もあったと思いますが、皆様ご丁寧にお答えいただきましてありがとうございました。今回、お答えいただいたものの抜粋をお届けします。

- (1) コロナ禍における MISHOP のあり方についてお聞かせください。
- (2) コロナが収束した後、考え方や生活様式の変化が見込まれます。収束後、部会としての展開のあり方やアイデアをお聞かせください。
- (3) 現在、感染を防止するため 3 つの密を避ける安全対策が取られています。海外からの人の出入国も規制があり、交流する機会が阻まれています。今後「国際交流」のあり方はどのようになると思いますか。

■ イベント部会(一般) 部会長 石井 章夫

- (1) 国際交流、理解、支援の原点に帰り、プラットフォームであり続ける(そこにあるコトの重要性)。安心・安全な場は多い方がよい。会報誌やホームページでの発信は大事だと思います。
- (2) 収束が前提なのであれば、今までのノウハウ・人材を生かし『つながり』をより大切にしていく。「仕方ないので」と諦めていたことを、意欲をもって進める。人を集め、つなぎ、盛り上げていくコトが得意な我々も、人と直接会ってはいけなくなると難しく…。段階的に集まる手段を考えていきたいと思いません。

- (3) 今後、さらに感染者が増える可能性もあるが、慌てず冷静に備える。人が来る・来ないはあっても、交流が不要になることはないし、『国際交流』がなくなるわけではないので、意欲をもって向き合う!

対策をしたうえで、実は内容はそんなに変わらないかもしれません。



■ イベント部会(青少年) 部会長 埴村 貴志

- (1) 日本人にとっても未曾有の事態。外国籍の方は申請する様々な事柄、手続き、受けられる援助の種類などで混乱していると思います。事務局が開き、少しでもそういった方々の救いになればと思います。今回のような緊急事態になるとボランティアとか言われていられない人も多くいます。事務局が機能していることが救いです。大変だと思いますが、外国籍の方がまずどんな問題を抱えるのか、そういった情報をみんなで共有し生かしてしければと思います。
- (2) まだまだ分からないことだらけです。子供たちとのふれあいや外国籍、日本人の交流も演出していきたいですが、収束なのか、ウィズコロナなのかによって、企画自体が難しいと思いますし、もう少し様子を見ないと方向性が見えませんが、安全を守って部会を開けません。

- (3) コロナが収束していない現状では、今までのサービスはなかなか難しいですし、まだ方向が見える段階ではなく、薬やワクチンが開発されてからの「あり方」だと思います。安全対策をとってもコロナの治療が明確でないまま、ボランティアを巻き込んでの事業については疑問を感じます。



■ 多文化教養部会 部会長 坂本 ロビン

- (1) 今回のCOVID-19の大流行のようなときにこそMISHOPが必要なのだと思います。私たちの活動は現在限られたものですが、日本人であろうと外国人であろうと、私たちは誰もが、いつでも、コミュニケーションを取れるようにし、お互いに支援することが必要です。ニュースレターは、MISHOPがここにあり、すべての人に連絡できることを人々に知らせるコミュニケーション方法のひとつです。
- (2) 私たち一人ひとりが自分の健康だけでなく、コミュニケーションやサポートができる安全な環境をどう確保するかを考えることが大切です。MISHOPでの活動において、このバランスをどうとらえるかを見直すことが重要です。
- (3) 新型コロナウイルスの影響で、外国で学ぶ人の減少を危惧しています。ですから、より多くの日本人が安心できる環境で異文化交流を体験できるようにすることが最も重要です。したがってMISHOPは今後さらに重要な役割を担うことになるでしょう。



■ サポート・サービス部会 部会長 安藤 興彦

- (1) 外国籍市民に対する情報提供を積極的に行うことに加え、HPや広報紙を通じて、またSNSを活用して情報発信をすることが大切だと思います。
- (2) 部会を早期に開催して、各グループの情報交換と情報共有を行い、グループごとに提供すべき情報を取りまとめます。

- (3) 交流時の感染防止ルールを明確に示し、参加者への徹底を図るとともに、交流会場の感染防止対策を講じることが必要です。



■ 広報部会 部会長 森田 義一

- (1) LLJは1対1ですので、感染の危険性があり、現行のスタイルでは難しいと思います。外国籍市民の行動のスタイルが不明である以上、無理だと思います。MISHOPとしては活動の休止はやむを得ないものだと考えます。しかし、なんらかの活動はやるべきです。例えば、帰国できない外国籍市民の要望を聞くとか、5人位のクラスを開設するとか…。
- (2) 終息はおそらく2年後くらいになるでしょう。すぐには元に戻れません。当面従来の活動スタイルは無理だと思いますので、新しい方法を各部会で考える必要があります。
- (3) 日本への入国がどうなるかで状況は変わりますが、どんな変化にも対応できる体制を作る必要があります。



* 2020年度協会事業計画・予算につきましては、協会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

編集後記

これまで当たり前できていたことが突然、できなくなってしまった…。

新型コロナウイルスの影響で、国内外を行き来したり、人と会ったり、触れ合ったりすることが難しくなって半年が経ちました。失ったものの大きさに呆然としながら、“新しい生活様式”を模索する日々。部会長のアンケートとともに、以下のようなお話もいただきましたので、一部、お伝えします。

(広報部会 山田)



- ◆ オンライン飲み会は何度か参加したがすぐに飽きた。『顔の見える連携』が大事だと痛感。早く安心してリアル飲み会が出来ることを祈っています。(石井)
- ◆ 毎日通勤する必要がなかったので、その時間を運動に費やし、3 か月間で合計 300km 走りました!! 運動のおかげで前向きな気持ちを持ち続けることができました。(坂本)
- ◆ 平常通り、買い物に行き、地域の広報誌を発行し、活動していました。(森田)
- ◆ 海外に住んでいる娘が里帰り中に、コロナ災禍で戻れなくなり、三鷹市の住民となってしまいました。長期滞在となったため、居住空間を広げようと家具を移動中に、自分で置いた段ボールに蹴つまずき家具もろとも転倒して痛い思いをしました(笑)。(安藤)
- ◆ 外出自粛とスポーツクラブの閉鎖で「コロナ太り」と「コロナストレス」を実感しています。(安藤)

* 現在協会では、外国籍市民の皆さんの生活に係る相談を中心に事務局職員が対応しています。

* 協会施設の開館時間(窓口業務) 月曜日から土曜日(祝祭日を除く) 午前10時～午後5時